

仙台市立荒浜小学校

2014年 12月 8日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)
北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

(1)「子どもの命は守られたのか」数見隆生編著(2011)かもがわ出版

【場所】

海岸から約800mの位置にある。
住所:宮城県仙台市若林区荒浜新堀端32-1
※現在は東宮城野小学校を間借りして再開。



【東日本大震災による被害】

津波により校舎2階まで浸水。

【震災当日の様子】

仙台市内で最も海岸に近い学校であることが意識され、津波を想定して4階建ての校舎が建てられていた学校で、震災当日は、校舎の上層階と屋上へ児童・地域住民共に避難し助かった。

近隣に高台等の避難場所のないこの学校としては、避難場所は基本的に校庭とか体育館ではなく、校舎の4階であると位置づけ、それを保護者や地域住民と合意してきた。また、この学校では毎年地域住民と学校との共同避難訓練も繰り返し行っていた。(1)

【調査して言えること】

学校の標高は約1.5mで、海から800mほどしか離れておらず、地震の際津波を警戒した避難が必要な学校である。学校の周囲に、高台や高い建物が無いので、学校外の避難は難しい。また、今回の津波で浸水していない、学校の標高よりもやや高い地域からも3km以上離れている。

周囲に高い場所が無いことから、校舎は津波の際の緊急一時避難場所として現在も利用されている。



南から見た学校(2014/11/1撮影)



学校の南側にある緊急一時避難場所の看板(2014/11/1撮影)